

環境経営レポート

令和6年7月～令和7年6月



令和7年7月17日作成



仲栄建設株式会社

目次

1. 組織の概要	1
位置図	2
2. 企業理念及び社訓	3
3. 環境経営方針	3
4. 環境管理組織図及び役割	4
5. R6年度環境経営目標と実績	5
環境配慮施工	6
5-1. 環境負荷実績(5年間)	7
環境実績グラフ	8
6. R6年度環境経営計画及びその取組結果と評価	9～11
7. 中期環境経営目標（R7～R9年度）	12
8. R7年度環境経営目標と計画	13～14
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	15～16
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果	17

1. 組織の概要

- (1) 事業者名 伸栄建設株式会社
- (2) 代表者氏名 代表取締役 出雲大俊
- (3) 所在地 静岡市葵区慈悲尾 6 7 - 1
- (4) 事業内容 建設工事
- (5) 従業員数 3 0 名 (令和7年7月17日現在)
- (6) 環境管理責任者 中村 友重
環境管理担当者 石川 文朗
- (7) 連絡先 連絡先 tel 054-278-1833
fax 054-278-1609
E-mail shineikensetu@basil.ocn.ne.jp
- (8) 建設業許可 建設業 静岡県知事許可 (特-5) 第2202号
産業廃棄物収集運搬業 第02201145008号
(自社運搬のみ、受託実績はありません)
- (9) 事業の規模 ①設立 昭和48年2月

②事業規模

活動規模	単位	R4年	R5年	R6年
工事等の件数	件	30	24	20
売上高	百万円	930	1119	1212
従業員	人	29	29	30
事務所床面積	m ²	333	333	333
資機材置場面積	m ²	1000	1000	1000
工場・作業所等床面積	m ²	650	650	650

- (9) 事業年度 7月1日～翌年6月30日

- (10) 認証、活動の対象範囲

事業活動：全活動（国・自治体が発注する建設工事及び
鉄道関連土木工事）

対象事業所：全組織（本社事務所・倉庫、資機材置場）
※資機材置場住所：静岡市葵区内牧370-3



2. 企業理念及び社訓

企業理念：希望と理想を胸に後世に誇れるモノを創造する

社訓：凡事徹底 『あたりまえの事を徹底的に実践し一生懸命にやりぬく。』

3. 環境経営方針

基本理念

伸栄建設の社員一人一人が、「地球の温暖化・資源の枯渇」という事態の現状を重く受け止め、身の回りの、小さなひとつひとつの取り組みを通じ、環境の保全と、資源の有効利用を継続的に実践します。

基本方針

- ① CO₂削減のための電気、燃料の使用量削減および、水資源確保のための節水に取り組めます。
- ② 産業廃棄物の分別を徹底し、リサイクル・リユースにつとめます。
- ③ 建設現場においては環境に配慮した工事を実施いたします。
- ④ 設定した経営目標の達成状況および経営計画の進捗状況を定期的に確認・改善し、継続的发展を目指します。
- ⑤ 環境関連法規等の情報収集に努めると共に、法規等の遵守を徹底します。
- ⑥ 社員一人ひとりが環境経営方針を理解し、自主的に取り組めるよう意識の向上を図ります。

制定日 平成24年2月1日
改定日 令和3年3月24日

伸栄建設株式会社
代表取締役 出雲大俊

4. 環境管理組織図及び役割 (R4. 7. 1～)

代表取締役 出雲 大俊

- ・経営における課題とチャンスをつまみ、環境経営方針の策定、見直しをする
- ・エコアクション21のシステムの確立
- ・経営資源の準備（人材・設備・資金・情報）
- ・マネジメントレビューの実施

環境管理責任者 中村 友重

- ・代表者に代わり、ガイドラインで規定する要求事項に従い、環境への取組及び環境経営システムを構築、運用、維持する。

副環境管理責任者 勝山 誠也

- ・環境管理責任者と共に、ガイドラインで規定する要求事項に従い、環境への取組及び環境経営システムを構築、運用、維持する。

事務局 石川 文朗

- ・環境管理責任者への報告及び要求事項の実施
- ・環境経営レポートの作成・管理
- ・従業員との連絡、情報開示

事務所・倉庫
石川 文朗

現場
小林 裕幸・坂下 朋也・山本 剛史

- ・事務局と連携し、それぞれの部署にて活動を率先し、成果・問題事項を提起する

事務職員

各現場担当

- ・活動計画に基づき、活動を実践し、改善事項を提案する

協力会社

- ・当社の活動に協力

5. R6年度環境経営目標と実績

数値は売上100万円当りの原単位

C02排出係数：中部電力令和3年度調整後係数：0.452

の原単位 C02排出係		単位	R3実績	基準値	R6目標値（基準値-3%） 実数値 原単位		R6実績 実数値 原単位		評価
C O ₂	C O ₂	kg-CO ₂	122,897.6	121.7	119,210.7	118.0	104276.92	86.04	○
	電力（本社）	kWh	18,387.0	18.2	17,835.4	17.7	16,900	13.94	○
	電力（現場）	kWh	49,151.5	48.7	47,677.0	47.2	29,604	24.43	○
	電力（合計）	kWh	67,538.5	66.9	65,512.3	64.9	46,504	38.37	○
	ガソリン	L	26,212.4	26.0	25,426.0	25.2	24849.6	20.50	○
	軽油	L	11,241.7	11.1	10,904.4	10.8	9061.83	7.48	○
廃棄物	コピー用紙	kg	240.0	0.2	232.8	0.2	392.0	0.32	×
	混合廃棄物	kg	1,430.0	1.42	1,387.1	1.37	650.0	0.54	○
上水使用量		m3	316.00	0.31	306.5	0.30	290.0	0.24	○
環境に関するクレーム		件	0	0	0	0	0	0	○
売上額		百万円	1,009.5				1,212		—
環境配慮施工 （詳細：次頁）		環境配慮型工法の採用や環境配慮型施工の提案をしている 環境にやさしい施工や工法を採用している 元請現場にて100%実施							

◎評価

- ・二酸化炭素について全体的な削減効果による。
- ・電力（本社分）については、休日の増加、残業時間の削減効果による。
- ・電力（現場分）については、現場環境による現場事務所数の減少のため
- ・ガソリンについては、減車及び低燃費車の導入効果による。
- ・軽油については現場環境による使用機会の減少による。
- ・コピー用紙については大規模工事の増加によるものと考えられる。
- ・混合廃棄物については今後も分別の努力を続ける。
- ・上水については引き続き節水に取り組む。
- ・環境配慮施工については次ページに記載。

環境配慮施工（具体策）

実績値は売上100万円当りの原単位 C02排出係数：中部電力調整後係数0.452
尚、工事中地元住民等により、苦情又は、意見があった場合は丁寧に対応し、直ちに監督職員に報告する。

(1) 騒音、振動対策

- ① 建設機械の使用による振動・騒音等を出来る限り減少させ、材料運搬等の車両は、急発進・急停車させないよう指導する。
- ② 積み込み中や資機材積み卸し中の車両は、エンジンを停止するなど騒音対策には十分注意する。

(2) 粉塵対策

- ① 周囲の状況を鑑み、搬出車両ならびに資材搬入車両の走行は低速(10km/h以下)とし、粉塵をまき散らさないよう注意する。
- ② 構造物取壊し作業により粉塵が発生する場合は、シートによる防護や適宜散水を行う。

(3) 近隣対策

- ① 通勤・通学またその他の場合であっても、工事車両の通行には十分注意を払う。
- ② 特に夜間作業時においてはむやみな空ふかしなどを行わないよう指導徹底する。
- ② 地域住民に配慮し、作業時の会話にも注意を払い大声での会話、世間話などの会話は極力控える。
- ④ 地域住民の車両の通行に十分注意すると共に挨拶等をしっかりとし、気軽に住民が話しかけられるよう地域住民とのコミュニケーションに注意を払う。

(4) その他

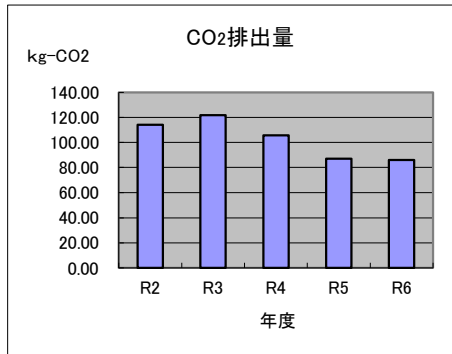
- ① 作業終了時に現場付近の清掃を行ない、常に施工箇所周辺のクリーンアップに努める。
- ② 一般通行車両の優先を徹底し、必要に応じて注意喚起看板を掲示する。
- ③ 現場に近接する商業施設への配慮、打合せを綿密に行う。

5-1. 環境負荷実績（R6年度を含む過去5年間）

実績値は売上100万円当りの原単位 C02排出係数：中部電力調整後係数0.452

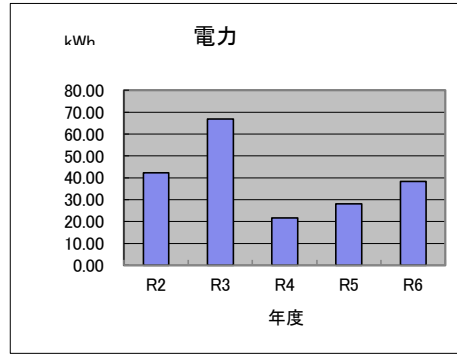
項目		単位	R2	R3	R4	R5	R6
C O ₂	C O ₂	kg-CO2	114.2	121.74	105.70	86.90	86.04
	電力	kwh	42.18	66.90	21.70	28.03	38.37
	L P G	m3	0.0128	0.0150	0.0300	0.023	0.009
	ガソリン	L	25.3	26.0	29.9	21.57	20.50
	軽油	L	13.3	11.1	9.9	8.18	7.48
	灯油	L	0.78	0.98	1.23	1.22	0.72
廃棄物	コピー用紙	kg	0.533	0.238	0.410	0.20	0.32
	混合廃棄物	kg	0.82	1.42	0.56	1.51	0.54
水	上水	m3	0.385	0.313	0.400	0.24	0.24
売上額		百万円	1,052	1,009.5	930	1,119	1,212

売上100万円当りの実績値



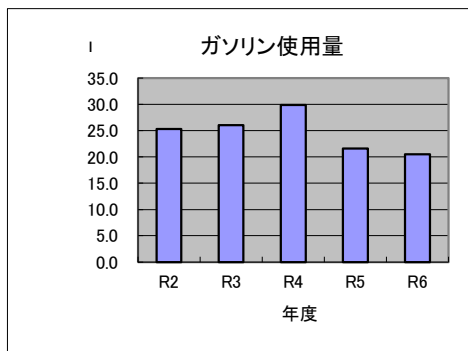
R5→6年度削減率 1%

- ・引き続き削減努力を続ける



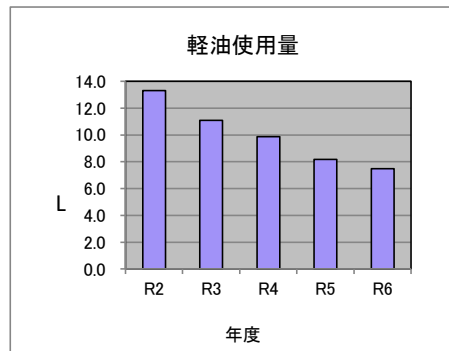
R5→6年度削減率 +36.9%

- ・現場での使用量の増加による



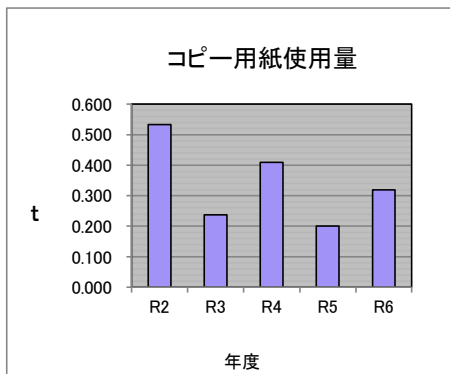
R5→6年度削減率 -5.0%

- ・普段の使用削減努力による



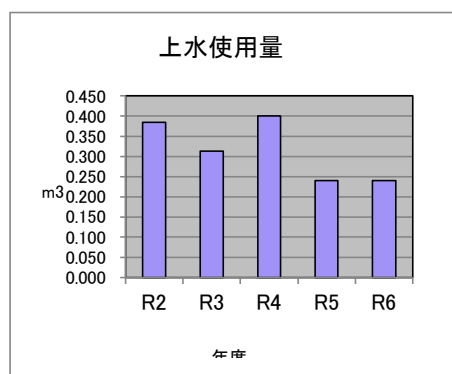
R5→6年度削減率 -8.6%

- ・エコドライブ等普段の削減努力による



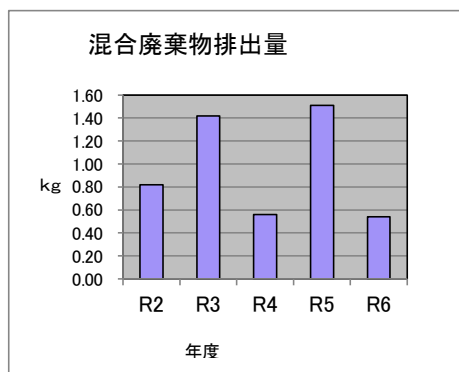
R5→6年度削減率 +60.0%

- ・大規模工事受注による使用の増加



R5→6年度削減率 -0%

- ・こまめな節水等継続する



R5→6年度削減率 -64.2%

- ・分別、現場処理の徹底を継続する
(昨年度一時的な大量処分を実施)

6. R6年度環境経営計画及びその取組結果とその評価

活動計画		責任者	担当者	実施事項	取組結果	継続の有無
C O 2 削減	電気使用量削減	中村	石川・小林	・事務所などの照明は、昼休み、残業時等不必要な時は消灯	実行できた。	○
				・空調の適温化（冷房28度程度、暖房20度程度）及び使用削減	8月の環境目標として設定	○
				・空調を必要な区域や時間に限定して使用	6月の環境目標として設定	○
				・使用していない時のPC電源オフ	5月の環境目標として設定	○
				・電気製品の待機電力オフ	5月の環境目標として設定	○
				・不在時の換気扇使用を止める	応接、給湯室、会議室を重点的に取り組んだ。	○
現場 担当			・現場での点滅灯のソーラー化	元請現場100%実施	○	
燃料使用量削減	全員		・エコドライブ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしをしない、駐停車中のエンジン停止等）	7月の環境目標として設定	○	
			・給油時のタイヤ空気圧チェック	運行記録時に意識づけしている	○	
			・排ガス規制に適合した建設機械を使用する	元請現場100%実施	○	
水削減 水量			全員	・建設機械等を洗車する場合は、泥等を落としてから行う	実行できた。	○
		・社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行		実行できた。	○	
		・給湯室での水使用量削減		水量を抑えて使用した。	○	
廃棄物削減	紙使用量削減	全員	・印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるよう考慮し、残部が出ないように配慮	10月の環境目標として設定	○	
			・両面、集約等の機能を活用した印刷及びコピーを徹底	10月の環境目標として設定	○	
			・プレビューの活用徹底	10月の環境目標として設定	○	
			・古紙としての回収を増やす	10月の環境目標として設定	○	

活動計画		責任者	担当者	実施事項	取組結果	継続の有無
廃棄物削減	廃棄物処理	中村	全員	・品質劣化等による不良在庫を減らすため、在庫数量の適正化等在庫管理を徹底	片付け、商品入替時等を実施した。	○
				・建設現場等で発生する廃棄物を混合廃棄物としないで分別する	3月の環境目標として設定。	○
				・事務所の混廃ボックスの搬出回数を減らす。	例年並みの搬出にとどまる。	○
				・紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底する	3月の環境目標として設定。	○
				・修理や部品交換が可能で、部品の再使用、素材の再生利用が容易な設計の製品を優先的に購入、使用している	購入時の確認を徹底した。	○
環境施工配慮		勝山	現場担当	・環境配慮型工法の採用や環境配慮型施工の提案をしている	元請現場にて100%実施。	○
				・環境にやさしい施工や工法を採用している	元請現場にて100%実施。	○
その他		中村	石川	・月1回のミーティングにて進捗、改善点等確認	重点目標を中心に気付いた点について注意喚起	○
				・月毎に取り組む重点目標を設定し、安全衛生委員会時に周知する	目標を持ち回りで作成し発表した。	○
				・活動に関する広報スペースを確保し、実施状況、成果など情報を提供する。	掲示板を利用して目標の周知を徹底した。	○

エコキャップの回収



累計個数 21,521 個
令和7年7月17日現在

月毎の具体的な取組事項

7月	夏場の車内エアコンの使い方を見直そう
8月	エアコンと扇風機を併用しよう
9月	スケジュール管理の徹底
10月	廃紙の削減
11月	体調管理
12月	1年のやり残しをなくそう
1月	現場を清潔に保つ
2月	体調管理
3月	後片付けの徹底
4月	仕事とプライベートの充実
5月	エネルギーの無駄を減らそう
6月	衣服・空調を上手に使い温度調節

7. 中期環境経営目標（R7～R9年度）

数値については、売上100万円あたりの原単位とする。（CO2のみ実数も併記）

経営目標値については、R6年を基準に（※）令和9年までに-3%とする。

電力、混合廃棄物については、本社からの排出量とする。

（現場電力については参考値）

CO2排出係数：中部電力令和6年度調整後係数：0.421

項目		単位	R6実績	基準値	R7経営目標	R8経営目標	R9経営目標
CO ₂ 削減	CO ₂	kg-CO ₂	102,835.3	102,835.3	101,806.9	100,778.6	99,750.2
			原単位	84.8	84.0	83.2	82.3
	電力(本社)	kWh	16,900.0	13.9	13.8	13.7	13.5
	電力(現場) ※参考値	kWh	29,604.0	24.4	24.2	23.9	23.7
	ガソリン	L	24,849.6	20.5	20.3	20.1	19.9
	軽油	L	9,061.8	7.48	7.40	7.33	7.25
廃棄物	コピー用紙	kg	392.00	0.323	0.320	0.317	0.314
	混合廃棄物	kg	650.0	0.536	0.531	0.526	0.520
水	上水	m3	290.0	0.239	0.237	0.234	0.232
環境に関するクレーム		件	0	0	0	0	0
売上額		百万円	1,212				
環境配慮施工		環境配慮型工法の採用や環境配慮型施工の提案をしている 環境にやさしい施工や工法を採用している 元請現場にて100%実施					

※工事内容の変動要因で従来目標と実態の乖離が大きくなったため、R6年度直近実績を踏まえ、またCO2排出係数も最新の数値を用いて新中期目標の見直しと策定を実施する。

8. R7年度環境経営目標と計画

活動計画		責任者	担当者	実施事項	取組内容	スケジュール
C O 2 削減	電気使用量削減	中村	石川・小林	・事務所などの照明は、昼休み、残業時等不必要な時は消灯する。	応接室、給湯室を重点的に確認する	通年
				・空調の適温化（冷房28度程度、暖房20度程度）及び使用削減	温度設定のチェック・グリーンカーテンの実施・ブラインド [※] の使用	夏季、冬季
				・空調を必要な区域や時間に限定して使用	こまめに電源を切る	夏季、冬季
				・使用していない時のPC電源オフ	ミーティングでの注意喚起	通年
				・電気製品の待機電力オフ	業務終了時の電気ポット電源オフ	通年
				・不在時の換気扇使用を止める	応接、給湯室を重点的に確認する	通年
	現場担当		・現場での点滅灯のソーラー化	元請現場100%実施	通年	
	燃料使用量削減		全員	・エコドライブ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等）	毎月の環境目標として設定し、 掲示板他目立つ所に掲示する	通年
				・給油時のタイヤ空気圧チェック	運行記録表にて確認	通年
				・排ガス規制に適合した建設機械を使用する	元請現場100%実施	通年
水削減使用量	全員	・建設機械等を洗車する場合は、泥等を落としてから行う	現場での注意喚起	通年		
		・社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行				
		・給湯室での水使用量削減	水量に注意し、無駄に出さない。	通年		
廃棄物削減	紙使用量削減	全員	・印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるよう考慮し、残部が出ないように配慮	毎月の環境目標として設定する ミーティングでの声掛け	通年	
			・両面、集約等の機能を活用した印刷及びコピーを徹底	ミーティングでの声掛け	通年	
			・プレビューの活用徹底	コピー機周辺でのポップ等による注意喚起	通年	
			・古紙としての回収を増やす	ミーティングでの声掛け	通年	

活動計画	責任者	担当者	実施事項	取組内容	スケジュール
廃棄物削減 廃棄物処理	中村	全員	・品質劣化等による不良在庫を減らすため、在庫数量の適正化等在庫管理を徹底	片付け、商品入替時等を実施	通年
			・建設現場等で発生する廃棄物を混合廃棄物としないで分別する	元請現場100%実施	通年
			・事業所の混廃ボックスの搬出回数を減らす。	前年度同様1回に抑える。	通年
			・紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底する	現場に合わせた分別ルールを徹底する。 エコキャップ運動への参加	通年
			・修理や部品交換が可能で、部品の再使用、素材の再生利用が容易な設計の製品を優先的に購入、使用している	購入時の確認を怠らない	通年
環境配慮施工		現場担当	・環境配慮型工法の採用や環境配慮型施工の提案をしている	現場担当者間で情報交換することにより情報の共有を図る	通年
			・環境にやさしい施工や工法を採用している		
			・現場での使用電力の削減	現場事務所での無駄をなくす	通年
その他		石川	・月1回のミーティングにて進捗、改善点等確認	担当者からの問題提起	通年
			・月毎に取り組む重点目標を設定し、安全衛生委員会時に周知する	月毎に順番で目標作成者が作成～発表する	通年
			・活動に関する広報スペースを確保し、実施状況、成果など情報を提供する。	掲示板の内容を四半期毎に更新する	7, 10, 1, 4月

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

名称	法令等の遵守すべき内容及び規制基準値	実施事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出抑制、適正な分別等の処理並びに生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る	1. 産廃排出者の義務としての委託契約書の作成 2. 県条例として産廃処分の現地確認相手の更新の確認 3. 産廃保管置き場の掲示	○
資源有効利用促進法	資源の大量使用・大量廃棄を抑制し、リサイクルによる有効利用の促進を図る	4. 廃棄物の分別、マニフェストに基づく処理・管理 5. 収集運搬許可の更新(5年毎)	
建設リサイクル法	請負金額500万円以上の土木工事において、使用されている建設資材を現場で分別する	契約時の届出	○
静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	事業活動によって生じた産業廃棄物を自らの責任において適正に処理する	産業廃棄物管理責任者の設置	○
騒音規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	指定地域内での特定建設作業における届出	自治体への届出	—
振動規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	指定地域内での特定建設作業における届出	自治体への届出	—
地球温暖化対策推進法	大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させ、地球温暖化を防止する	排ガス規制に適合した建設機械を使用	○
大気汚染防止法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	建築物の解体に伴う煤煙、自動車排気ガスに係わる許容限度を定めること等により生活環境を保全する	エコドライブなど運転時における配慮	

名称	法令等の遵守すべき内容及び規制基準値	実施事項	遵守状況
浄化槽法	事務所での保守点検、清掃、法定検査	年4回の保守点検及び浄化槽法第11条に基づく年1回定期検査	○
建設業法	建設業許可の登録・更新	5年毎の更新 (令和5年10月26日更新済)	○
建築基準法、 道路法、河川法 上下水道法	工事基準の順守、各種申請手続きの適正処理	水質汚濁防止、道路占有許可の申請等	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器（テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機・衣類乾燥機）の適切な廃棄	小売店への引取依頼もしくはリサイクル券購入後指定引取場所へ運搬	○
PCリサイクル法	使用済みのパソコン、モニターの適切な処理	メーカーへの引取依頼、回収料金の支払い	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の廃棄	リサイクル料金の支払い、引取業者への引渡し	
フロン排出抑制法	事業用エアコン、重機付属のエアコンにおける簡易点検	現場事務所にて使用する事業用エアコンの3ヵ月に1回の定期点検およびその結果を記録	○

1. 環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、全て遵守されていました。

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟はありませんでした。

令和7年7月17日確認
確認者 事務局 石川文朗

10. 代表者による総合評価と見直し・指示の結果

		項目	確認	コメント
見直し 関連情報	1	環境方針	☒	
	2	環境目標及び目標達成状況	☒	一部項目を除き全体のCo排出量削減
	3	環境活動計画及び取組状況	☒	良好
	4	環境関連法規等の遵守状況	☒	該当事項については遵守している
	5	外部コミュニケーション・対応記録	☒	外部からの苦情なし
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	☒	常に対応できる体制にある
	7	その他	☒	特になし
代表者による 見直し	今期は規模が大きく工期の長い工事が複数、無事竣工し、高評価をいただいた。エコアクションに関する事項についても一定の評価があったと考えている。とはいえ、全体としては昨年指摘いただいた事項への対応、すなわち反省から始まった1年であり、今後同様の評価を受けることの無いよう社訓である「凡事徹底」を各人が意識し、派手な結果を残せなくとも相応の評価をいただけるよう努力していきたいと考えます。			
	項目		変更の 必要性	指示事項等
	1	環境経営方針	無	
	2	環境経営目標・計画	有	中期経営計画の見直し
	3	環境経営計画・取組項目	無	
	4	環境組織	無	
	5	システム要素	無	
	6	その他	無	

令和7年7月17日

伸栄建設株式会社
代表取締役 出雲大俊